



佐久市立望月小学校
学校だより



令和4年(2022年)

12月20日(火)

(担当：校長)

全校音楽 ～信州もちづき子ども太鼓「駒」の演奏鑑賞～



15日(木)、伝統芸能とも言われる和太鼓のよさやその伝統を受け継ぐ友だちや地域の人の努力を感じてほしいと願い、全校音楽で信州もちづき子ども太鼓「駒」の演奏を聴きました。足元からも伝わってくる太鼓の響きを全身で感じながら、強さやテンポの変化による曲想や笛の音色との調和なども味わえました。子どもたちの頑張りや感じ方のよさを伝えたく、日記や自主学习ノートに書かれた感想を紹介합니다。

12月15日(木曜日) 43/100(日記100日を目標にして43日目という意味)

今日は小学校で太鼓を発表しました。**1年生が入ってきて、ドキドキ**しました。みんなの前で**緊張したけれど、しっかいとたたけました。これからも太鼓をがんばりたい**です。

(2年 さん)

→ 「1年生が入ってきて・・・」というところに先輩としての自覚を感じます。緊張感を乗り越えて発表をしたことが「これからも・・・」という意欲につながっています。

「太鼓の振り返り」

朝の音楽集会で望月太鼓を聴いて、最初に思ったことは**迫力がすごい**ということです。私たちのクラスは瀧渥さんが太鼓をやっています。音が大きくて、**床に伝わる振動がすごかった**です。

最初は低学年中心で、やっていくうちに全員がそろってきて体育館全体に太鼓の音が鳴り響きました。私たちの**よく知っている「望月小唄」なのに太鼓でやっているだけで、全く違う曲に聴こえました**。

次は高学年と中学生が中心でやっている曲で、**音の強弱がついていて、太鼓の種類も変わっていてすごかった**です。途中でパフォーマンスを入れていて、**練習をいっぱいしなきゃいけないと思う**ので、すごいと思いました。

(5年 さん)

→ 床からも伝わる響きに迫力を感じながら、強弱や太鼓による音色の違いにも気づいています。そして、発表の陰にある努力を想像しています。

ぼくが太鼓を始めた理由は、「**何か自分でできることはないかなあー**」と思ったからです。練習のときには、リズムをそろえるところをがんばりました。本番のときは、足が震えていて、**だんだん打っているうちに足が震えなくなってきました、「どうしてだろう？」**と思いました。

(5年 さん)

→ さんに私がインタビューして「答えは日記に書いて」と伝えると、このように書いてくれました。できることを見つけないと思って太鼓を始めたこと、練習でのがんばり、そして本番では足が震えるほどの緊張を乗り越えたときに感じた不思議な気持ちなど、さんの言葉で表現されています。

長野県読書感想文コンクール【入選】作品の紹介

「がんばって書いた読書感想文」

私は読書感想文の本として「うまれてそだつ」という本を選びました。この本を選んだ理由は、いろんなことが知れそうな本だったし、読んだことがない絵本だったからです。

生き物が育つためには「設計書（せつけいしょ）」が必要です。その設計書は「DNA」の中にあります。DNAは、目に見えないほどの小さなものです。くねくねとした青いリボン、そしてそれぞれのリボンから突き出た「塩基（えんき）」が向かい合って手をつないでいます。「塩基」はアデニン、チミン、シトシン、グアニンの4種類があって、アデニンの色が黄色、チミンの色が赤色、シトシンの色が緑色、グアニンの色が紫色です。そしてこの4種類が何千万、何億と並んでいます。並び方は数えきれないほどたくさんあります。

「設計書」はこの4つの文字で書かれた暗号文のようなものです。「設計書」の暗号文はDNAのあちこちに散らばっています。それを体はちゃんと読み解きます。その1つ1つの暗号文を「遺伝子（いでんし）」と言います。例えば、鼻の形についての遺伝子は4つあります。髪の毛の色については100をこえる遺伝子があります。目の色については少なくとも16の遺伝子があります。人間には2万をこえる遺伝子があります。それが順番通りに読み解かれて、自分の体が作られ、自分や友だちが生きているのです。

私はこの本を読んで、「設計書」や「DNA」や「遺伝子」というのが出てきて、最初は全然意味がわからなかったけれど、2、3回読んでいくうちにだんだんわかってきました。

私は「うまれてそだつ」を読んでいろいろな言葉や言葉の意味が知れてよかったです。この本を読んでみて、登場人物はたくさんいるけれども、いろんなことを実験したり、やったりしていて、私も「がんばろう!!」と思いました。

(4年 さん)



→ 課題図書を選んで「感想文を書こう」とがんばったところがいいですね。わからないことがわかったおもしろさに加えて、それを実験・研究して教えてくれた人の努力を感じ「がんばろう!」としています。

「本当のやさしさ」

私は、感想文で「つくしちゃんとおねえちゃん」を選びました。どうしてかというと、表紙がおもしろそうで、あらすじを読むと「足を引きずるのに、すごいことができるお姉ちゃんだからおもしろそうだな」と思ったからです。

私は心に残ったことが3つあります。

1つ目は、つくしちゃんがランドセルの中身をぶちまけてしまったときに、お姉ちゃんがつくしちゃんに「先に行きな」と言って、つくしちゃんは先生に「「だからね、遅刻はお姉ちゃんのせいじゃないの!」」と言ってくれたところです。2人がやさしい気持ちをもって、お互いに思い合っているところがとってもいいなと思いました。私もまねしたいです。

2つ目は、お姉ちゃんが怒りっぽいところです。私も妹と弟がいて、お姉ちゃんのように、だめなこと、やらなきゃいけないことでよく怒ってしまうので、その気持ちはよくわかります。

3つ目は、お姉ちゃんが障害をもっているにもかかわらずすごいことができるんだと思いました。

私はこの本を読んで、2人の思いやりから、本当のやさしさと人にゆずるやさしさがわかりました。お姉ちゃんが本当はとてもやさしかったということもわかりました。私もこのお話と一緒に、妹と弟と私の仲が深まっている気がします。これからの生活にいろいろなことが生かせる、おもしろくて勉強になる本でした。

(2年 さん)



→ 物語のお姉ちゃんと現実のお姉ちゃんである私を重ね合わせて深く考えています。そして物語の2人の関わりから、自分と妹、弟の仲が深まっていることに気づいたところもいいですね。

今年の漢字⑤

さん	一	一人でもがんばる勇気をもてるから。(2年)
さん	学	学び合いの「学」、学校の「学」だから。(3年)
さん	遊	新しい遊びをたくさん見つけたから。(4年)
さん	努	理由は、みんなが努力していき、よりよい学校生活をみんなで作っていったからです。そして全校がより良い学校生活のために努力したからです。(5年)

